

FAI 2012 IGC 総会出張報告

(社)日本滑空協会 IGC Delegate

甲賀 大樹

3/2(金)および3(土)南アフリカ Potchefstroom で開催された IGC 総会の報告です。総会は午前午後のコーヒブレイクと昼食以外、9:00 から 17:00 まで Agenda のように行われた。南アフリカでグライダーが飛んで 100 年と言うことで、南アフリカ滑空界からの招待で開催された。

1. 出席者

IGC 総会出席者 3/2-3,2012 Potchefstroom South Africa

First Name	Surname	Country	Title
Bob	Henderson	IGC President	Vice President FAI Executive Director Ex.IGC President
Bernald	Smith	IGC	Chairman, EnvC、ANDS
Ian	Strachan	Chairman IGC GFAC	Chairman, IGC GNSS Flight Recorder Approval Committee Secretary CANS
Ségolène	Rouillon	FAI	FAI 事務員
Tor	Johannessen	Honorary President	President of Honour
Peter	Ryder		President of Honour
Eric	Mozer	USA	Acting President
Rene	Vidal	Chile	Vice President
Visa-Matti	Leinikki	Finland	Vice President
Roland	Stuck	France (IGC bureau)	Vice President Sailplane Grand Prix
Goran	Ax	Sweden	Vice President
Brian	Spreckley	United Kingdom	Vice President
Richard	Bradley	South Africa	Treasurer
Peter	Eriksen	IGC	Secretary
Patrick	Pauwels	Belgium	EGU EASI
Alexander	Georgas	Greece	Country Development
Marina	Vigorito	Italy	Trophy Management
Eduardo	Toselli	Argentina	
Terry	Cubley	Australia	
Hermann	Trimmel	Austria	
Jiri	Cihlar	Czech Republic	
Frank	Øjvind	Denmark	
Morgens	Hansem	Denmark	
Louis	Bouderlique	France	
Christof	Geissler	Germany	
Marc	Puskeiler	Germany (Alt)	
Daiju	Kohga	Japan	
Carlo	Lecuit	Luxembourg	
Frouwke	Kuijpers	Netherlands	
Ronald	Termaat	Netherlands	
Ross	Macintyre	New Zealand	
Arild	Solbakken	Norway	
Arthur	Rutkowski	Poland	
Vladimir	Foltin	Slovak Republic	
Angel	Casado	Spain	
Antonio	Martinez-Moneo	Spain	
Rick	Sheppe	USA	
Rainer	Rose	OLC	OLC 創始者 2011 リリエントールメダル受賞者
Loek	Boermans	OSTIV	OSTIV 会長



2. 決議事項

2.1 議題および採否状況

	即決事項			Year 2			Year 1			1.2 項目
	案数	可決	否決	案数	可決	否決	案数	可決	否決	
競技会関係	4	3	案撤廃 1	7	6	1	8	4	4	(7)
記録関係				1	1	0	1	1	0	
記章関係				2	2	0				
Fright Recoder 関係							1	1	0	
他	委員選出	1	1	0						注 1
	功労者表彰	3	3	0						(6)
	総会開催など	3	3	0						(8)
集計	11	10	1	10	9	1	10	6	4	

注1：ANDS GFAC委員選出：Hans Trautenberg、Tim Shirley

2.2 重要決議事項

(1) 2015年以降の World Gliding Championships (WGC)

* Open、18m、15m で構成する WGC は偶数年開催で継続する。

* Standard、Club、World で構成されていた WGC は、Standard、Club、20m 複座 (20mMulti) で再構成し、偶数年に開催する。

* 13.5m クラスは奇数年に独立して WGC を開催する。

* 各 NAC からのエントリー数は、Std.2、Club.2、20m 複座 1、13.5m4、とする。

注：PW-5 の One-make Competition だった World Class は 2013 年末で終了。FAI 13.5m クラスで競技会が開催される。

(2) Year 2 議決事項

* 20mMulti Class 定義

* Club Class ハンディキャップの Reference Mass に関する規定

* 50000ft 以上の高度記録では Flight Recorder 使用を必須とする。

新記録マージンを機械式自記高度計で 3%、電子式自記高度計で 1%、または GPS データ使用で 150m とする。

* 銀章および金章トライで Electronic Declaration の場合、Sporting Code の規定にあるフライトログにパイロットと機体を特定する要件を削除する。

* 銀章および金章トライで、100m の誤差マージンを容認するなら、GPS 記録だけで 1000m 達成を認める。

(3) 裁決されず来年に引き継がれた Year 2 議案

* WGC および Continental Championships でチームカップの上位 3 者にメダルを与える。

(チームカップ自体まだ決定されていないため)

(4) Year 1 議決事項で承認され、来年 Year 2 議決事項として討議する事項。

* 競技規定に安全施策をいかに盛り込むかの議論。安全は競技規定に入れる性質では無いとの意見から、OSTIV で提唱している “Safety Pays” の具現化として規定必要など諸説ある。

* Team Cup の新設

* 自由飛行距離記録が指定地飛行距離記録と関係して申請された場合、10% 以上超えていなければ新記録としない。

* フライトレコーダーの認定に関する提案

* 20m 複座パイロット/クルーのパイロットランキングについての提案

(5) 否決された Year 1 議案

* 競技日程に少なくとも 8 日ごとに休養日を加える。

* 競技会の Finish Ring に関する提案

* 飛行禁止空域侵犯のペナルティに関する提案

* より多くの機種を含むハンディキャップリストの作成提案

(6) 表彰者選出 (記名投票、それ以外は挙手による裁決)

* Lilienthal Medal : Giorgio Galetto, Italy

* Pirat Gehriger Diploma : Andrea Tomasi, Italy

* Pelagia Majewska Medal : Gill Van den Broeck, Belgium

(7) 2015年の競技会開催地選択 (記名投票)

* 7th FAI Woman's World Gliding Championships 2015

Amborg, Denmark; 1 to 14 Aug 2015 (Alternate dates: 25 to 29 May 2015)

* 8th FAI Junior's World Gliding Championships 2015

Narromine, Australia; 1 to 12 Dec 2015 (Alternate dates: 6 to 17 Jan 2016)

* 18th FAI European Gliding Championships 2015

Ocseny, Hungary, Open/ 18M/ 20M multi-seat; 12 to 25 Jul 2015

Rieti, Italy, 15M/ Std/ Club; 2 to 15 Aug 2015

* 1st FAI 13.5 Meter World Gliding Championships

候補撤回により開催地決定できず。

(8) その他

自動車のF1レースのように少人数のグライダーパイロットが年間を通じて世界各地を転戦して競技を行う形式の Sail Plane Grand Prix を事業とする法人をIGCの下に設立する提案があり、承認された。

(9) 総会開催関係事項

* 2013年IGC総会日程 3/1及び3/2、2013

* IGC総会はローザンヌ以外で開催、7/末までに場所決定、8/中までにDelegateに連絡

2.3 総会の様子

FAI および関係団体のほか、24 カ国の Delegate (議決権有) が集まり、いくつかの国は議決権を委任していた。毎回、西北欧勢、ロシア東欧勢の利害が対立し、それに南北アメリカ、オセアニアが加わり、多数決では西北欧勢が制することが多い。

IGC 会長 Bob Henderson は会議終了直後に結果をメールで関係者に送付するので非常に好感が持てる。誤りが含まれていても、Delegate からの指摘で修正するなど極めて透明な運営と思う。総会中口頭で、また 3/13 付メールで、Eric Mozer (米国) が Acting IGC President に就任し、Bob Henderson (ニューゼaland) は FAI の Executive Board member の役職に重心を移すと発表があった。

FAI は航空スポーツの競技、記録、記章に関する業務を行っているが、IGC でも議題はこの 3 つで、特にカテゴリー 競技 (一般、女性、ジュニアの世界選手権、およびコンチネンタル選手権) に関する件で、開催地選定、競技機分類、ルール改訂などに関してさまざまなかけひきが飛び交っている。



2.4 Delegate 達

交通の便が不明なのと毎日便が無いために往復に余裕を持ったため、他の Delegate 達とゆっくり話げできた。Delegate 達はお互い長年の友人・知人で、4 年で 3 回出席している私を皆知っており、半分くらい顔と名前が一致しない私にハンディがあったが、今回ほぼ全員知ったと思う。朝食、コーヒープレーク、昼食、コーヒープレーク、夕方からバーに集まってそのまま夕食に移り、ラウンジで、長い時間話が出来た。会議の前後の雑談の収穫が大きいのはいずれも同じ。

各国でも滑空スポーツの競技人口は愛好者の 1~2% とのこと、3000 名と推定される日本の滑空愛好者人口は世界的に上位。パイロットがそんなに居るのになぜ競技会に出ないのだと言われた。

将来の航空の重心は中国インドを含むアジアに移るとの見方から、FAI もアジアを重視している。アジア各国で IGC Delegate が任命されているが、いままで総会で会ったことが無い。滑空スポーツは牧畜地帯で行われており、集約的な稲作地域に将来滑空スポーツが広がるかどうか興味がある。アウトランディング場所が無く、経験の浅いパイロットがクロスカントリー・ソアリングに出るハードルが高いのが日本で競技パイロットが育ちにくい原因かと思う。

2015 年 12 月にオーストラリアのナローマインで Junior's World Gliding Championships が開催される。この地は日本人パイロットが多く飛んでおり、これに参加できるよう努めて見たい。オーストラ

リアの Delegate Terry Cubley は、いくらでも手助けすると言っている。2015 年に 25 歳誕生日を迎えるより若年、銀章以上、National Competition 2 回以上出場経験などが主な出場要件になっている。

昨年のリリエントールメダル受賞者、On Line Contest のシステムを開発し、無償で運営している Reiner Rose に日本でも多くのパイロットが使わせていただいていることを話し、謝意を表した。OLC が便利で無料だから利用しているが、運営資金は寄付で賄っているので、OLC 利用の際は寄付も考えるべきだと思う。寄付すると名前にスマイルマークが付けられる。

ポーランド Delegate の Arthur Rutkowski から、ポーランドの音楽家が日本の 3.11 被災者のためにボランティアで音楽会を開催し、会費ならびに CD の売上を日本に寄付したとの説明を受け、ショパンのピアノ曲が入ったその CD をいただいた。彼は宮城県航空協会（東北の滑空団体）の斎藤岳志君と旧知とかで、この CD は斎藤さんにお送りした。英国の Brian Spreckley やフランスの Roland Stuck から日本人知人の消息を尋ねられた。

皆興奮して話すからお前は会議の内容について行けないのではないかと質問された、全部は分からず、特に競技に係る細かい部分やかかけひきなどの理解は乏しいと感じている。

滑空スポーツに係る将来の問題としては、各機に登載した GPS を相互連携して安全を確保する、滑空界での FLARM、航空輸送事業での TCAS のような方向に進んでおり、他の助けを借りず飛行することを旨とする滑空競技で、はからずもこのような機器から他機の飛行に係る情報（位置、高度、速度、上昇率）が分ってしまうので、どうするかが問われ始めている。

航空管制でも、現在は航空路に 3 分間隔でリニアに航空機を並べているが、精密な GPS を各輸送機に備える将来システムでは、GPS 相互でセパレーションを確保して、もっと多くの航空機を航空路内に入れるようなことが考えられているようだ。

FAI IGC 環境委員長の Bernard Smith（米国）はもう 90 歳ぐらいだろうと思われるが元気で、昔 JAL でマーチン 202 の副操縦士で、渋谷区松濤に住んでいて、奥様は日本人とのこと。平沢さんを良くご存じとのこと、日本のニュースに関心を持ち、いつもいろいろ聞かれる。

FAI IGC で空域や Flight Recorder の専門家 Ian Strachan（英国）とは、日本でもグライダーが空域を利用するうえでの問題が発生していることを話し、今後の進展でヨーロッパの例を交えて教えて貰えることになり、定期的な情報交換を始めている。

3 会議以外の公式行事

会議以外の公式行事は 3/1 夕方 18m クラスの JS-1 を作っている Jonker なるメーカーの工場見学、3/2 夜夕食会、3/3 夜 Potchefstroom のグライダークラブから総会参加者全員バーベキュー・パーティに招待された。Delegate 同伴者用として、金やダイヤモンド鉱山見学、サハリツアーなどが用意された。

3/1 夕方 Jonker 社グライダー工場見学会

Jonker Sailplane 社は Jonker 兄弟が経営しており、18m クラスの競技機、Max.L/D 54 を謳っている JS-1 を製造販売して、競技会で成績を残している。金属部品、FRP・GFRP 部品、組立、塗装、磨きを行う全行程を見学させていただいた。主翼主桁の製造工程だけは見学に入っていなかった。メカニカル・エンジニアでグライダー設計も経験した私から見て、特にすごいと思う部分は無かった。推力 50kg のターボジェットを取り付けたセルフローンチの動画を映していた。

主翼は 12.6%厚のカスタム翼型で、翌表面はサンドペーパーで磨いて仕上げるが、完全な翼型になっているのかいつも疑問がある。JS-1 でも最大翌厚部より後縁側を光の反射を利用して眺めて行くと、やはり大きな凹凸のうねりがあり、標準的な仕上以上では無い。曲率が大きく、剛性の低い、広い平面を精密に磨き上げる技術の完成が L/D の更なる向上に寄与すると思う。



3/3 夜 バーベキューパーティ

バーベキューパーティは地平線まで何も無い草原（飛行場のはずれ）の滑空クラブハウスの前で行われた。子羊2頭の“開き”を専用ロースターで5時間かけて焼き上げたもの、および別に作られたビーフ・シチューがメインディッシュだった。クラブハウス前に巨大なたき火が焚かれ、夕方から陽が沈んで夜になり、星空輝く夜中まで会合を楽しんだ。



4 現地の様子

Potchefstroom は Johannesburg の西 150km あたり、ほぼ南アフリカ国の中央に位置する大学町。夏の終わりで朝 6 時から夕方 8 時ごろまで明るく、日射は強烈で日中 30 ほどになるが湿度が低いので日陰は涼しい。朝 10 時ごろから積雲が出始め、すぐ空一面を覆い、夕方軽い夕立があることがある。雲

底は地上 1000mほどとのことで、グライダーで飛行すればいつまでも飛べそうな条件、隣国ナミビアで世界記録が続発するのが理解できる。Johannesburg と Potchefstroom の間は車で送迎していただいたが、地平線まで何も無いなだらかな丘にトウモロコシ畑、牧場、草原があり、途中いくつもの金鉱跡が望見できた。泥の色が真っ赤（レンガ色）なのが印象的。

太陽や月は東から昇って西に沈むが、北の空にあるので東西南北の感覚が狂って方向音痴になる。夜は一面の星空で、南の仰角 40 度あたりに南十字星がかがやいている。

会場は North West University の Sports Village なる施設で行われた。宿泊施設、会議場、食堂、バー、プール、有料の WiFi サービスがあり、その周辺に多数の陸上競技トラックや各種球技場が設置され、施設内ですべて賄える。サッカー世界選手権の際、スペインチームが滞在・合宿したそうで、環境は申し分なし。施設入口に守衛所があり、部屋のカードキーをかざして出入りできる。



NWU Sports Village の外はすぐ大学キャンパスで若い人々で賑わっており、レストランなどがある。反対側は高級住宅地で、日中外を歩いているのは私ぐらい。少し歩いて町の中心部に行っても、おみやげにするような品物は売っていない。飲物や食事の価格は実感日本の半額、PET ボトル入りマンゴジュースが美味。



東京から直行便は無く、私はタイ航空 バンコク経由で、飛行時間は 6 ± 1 時間 (4600 km) + 11 時間 (8000 km)。時差は東京より 7 時間遅れ。

添付資料

- * Decisions : IGC Plenary Meeting, Potchefstroom, South Africa, 2nd and 3rd March 2012 Decisions
- * Agenda : IGC Plenary Meeting, Potchefstroom, South Africa, 2nd and 3rd March 2012 Agenda
- * Minutes : IGC Plenary Meeting, Potchefstroom, South Africa, 2nd and 3rd March 2012 Minutes

以上